

# JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版  
JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

**世界初  
ウインドチャレンジャー  
搭載船舶で穀物輸送**  
(畜産総合対策部・畜産生産部)

4面

**「大分県施設園芸機器  
資材展2024」を開催**  
(大分県本部)

配送先変更(住所・宛名)、  
配布部数変更はこちら



<https://x.gd/G3W90>

写真提供: 群馬県本部  
こんにゃくいも

News!



## 世界初 ウインドチャレンジャー搭載船舶で穀物輸送

穀物サプライチェーンの脱炭素化に着手

畜産総合対策部・畜産生産部

全農は商船三井ドライバルク(株)と連携して、世界で初めて風力補助推進システム「ウインドチャレンジャー」を搭載した船舶を利用した穀物輸送に着手しました。

牛や豚、鶏といった家畜の飼料となる穀物は、主に海外から海上輸送で輸入されています。近年、世界的に温室効果ガス(GHG: Greenhouse Gas)排出量の削減が求められる中、全農は新たな取り組みとして商船三井と(株)大島造船所が中心となって開発した、硬翼帆式の風力補助推進システム「ウインドチャレンジャー」を搭載した船舶を用船。米国における全農グループの穀物輸出基地である全農グレイン(株)で穀物を積み込み、日本まで海上輸送を行いました。

この装置によって燃料消費



「ウインドチャレンジャー」を搭載した船舶



全農グレインで穀物を積み込む様子

を効率化し、1航海で航路等の条件次第で約7〜16%の燃料節減およびGHG削減効果が期待されます。本船は6月に長崎県で行われた命名式で、全農の由井琢也常務理事により「GREEN

WINDS」と名付けられました。同取り組みは、穀物サプライチェーンの脱炭素化に向けた第一歩であり、全農は今後も持続可能な畜産酪農事業を推進していきます。

News!



## 農林中央金庫山形支店と双方向型人事交流

県域段階で全国初 協業深化と人材育成・能力開発へ

山形県本部

山形県本部と農林中央金庫山形支店は、2024年度から県域段階としては全国初となる双方向型の人事交流を開始し、それぞれ職員1人が出向して勤務しています。双方の業務内容を理解することで、協業の深化と生産者・系統組織の幅広いニーズに対応できる人材の育成・能力開発を目指します。

人事交流をきっかけに、経済事業・信用事業の部門間の壁を取り除き、相互理解を深める取り組みを具体的に進めています。

8月29日は、農林中金主催のJA融資推進担当者の交流会を開催。県本部職員が農業機械の情勢を説明する時間も設けました。9月2日は、県本部から出向中の職員が講師となり、農林



農林中金の職員を対象とした米流通の仕組みを学ぶ勉強会

中金職員を対象に、米流通の仕組みを学ぶ勉強会を開催しました。

人事交流の内容と成果を検討するために、四半期に一度、笠原康弘農林中金山形支店長と長谷川直秀県本部長を交えた意見交換会も



四半期に一度開催する定期意見交換会

開催しています。人事交流を契機として、生産者・JAからの負託にこたえられるよう、さらなる事業間連携の手法を検討していきます。

## 第2回「ぐんま野菜い〜ね！フェス！」を開催

「学ぶ・楽しむ・食べる」を通して野菜の価値を訴求

群馬県本部

群馬県本部は10月5、6日、イオンモール高崎で群馬県と、イオンリテール(株)、イオンモール(株)、JAGグループ群馬と協働で第2回「ぐんま野菜い〜ね！フェス！」を開催しました。

イベントでは、生産コスト

に見合った野菜の価値について考える機会の創出を目的に、県内JAによる野菜販売会「ぐんまルシエ」のほか、対象飲食店で県産野菜を使用した特別メニューの提供などの企画を実施しました。

先着順で行った「親子で収穫・出荷体験」や「やさしいを知らう！親子でクイズラリー」は人気を集め、参加した家族連れは野菜に触れたり、クイズに挑戦するなどして野菜の生産過程について

理解を深めました。

ほかにも野菜摂取に関するパネル展示や、7月に希望者向けに配布したキュウリの栽培絵日記で応募する「きゅうりのお絵描きコンテスト」の作品展示を行いました。コンテストの受賞者には蒟蒻甘味セットをプレゼントしました。

県本部担当者は「野菜を生産することの大変さや価値が少しでも伝わり、多くの消費につながってほしい」と期待を込めました。



関係者によるキックオフセレモニー



買い物客でにぎわう野菜販売会「ぐんまルシエ」

## JASS-PORT 弥栄をセルフ化

スタッフ給油も併設、記念イベントでアピール

京都府本部

京都府本部は10月5、7日、直営ガソリンスタンドのJASS・PORT弥栄のセルフ化リニューアルオープンに伴うイベントを開催しました。

京都府本部直営ガソリン

スタンド弥栄給油所は、9月末にフルサービスSSからセルフサービスSSへのリニューアルを行い、「JASS・PORT（ジャスポ）弥栄」となりました。

リニューアル記念に開催したイベントは、3日間で自動車燃料油の販売数量が従来の2倍以上となる大盛況で、生まれ変わったSSを地域住民へアピールしました。

イベント期間中に来所した顧客からは「キレイで便利になった」「これまで通りスタッフ給油してくれるので助か

る」といった声が寄せられま

した。給油レーンのうち2レーンはスタッフ給油対応可としており、一部の法人顧客やセルフサービスに慣れていない高齢者に対しては従来どおりスタッフによる給油を行っています。イベント期間中には新規顧客も増え、3割程度の顧客がセルフサービスを利用していました。

JASS・PORT弥栄では地域住民とのつながりを大切にしつつ利便性や効率も重視し、持続可能な燃料油事業を目指していきます。



リニューアルしたJASS-PORT 弥栄



セルフ給油とスタッフ給油を併設

News!

## 「大分県施設園芸機器資材展2024」を開催

### 近年の施設園芸環境を踏まえた園芸資材を提案

大分県本部



各メーカーのブースは多くの来場者でにぎわった

「欲しかった園芸施設機器の展示・情報がそろっており、実際に各メーカー担当者から話を聞けて大変参考になった」と話しました。

来場者アンケートでは、「次回も開催してほしい」といった声が多くあり、満足度の高いイベントとなりました。

2年に1度開催される資材フェアは今年で3回目を迎え、資材関連メーカー46社が出展しました。出展メーカーは、近年の猛暑を受けて、作物の生育不良や農業者の熱中症事故を防ぐための高温対策資材を提案したほか、スマート農業に関連する最新機器の紹介や気

象災害対策に向けて、自社の強みを生かしたアイテムを来場者へPRしました。

また、全農県本部間の連携を生かして、全農ブースとして徳島県本部の防草段ボールシートなども紹介し、来場者の関心を集めました。

会場を訪れた生産者は

大分県本部は、大分県、大分県園芸活性化協議会、JAと共同で「大分県施設園芸機器資材展2024（以下、資材フェア）」を10月8、9日の2日間、レゾナックドーム大分（大分市）で開催しました。

News!

## ハウス食品(株)と共同で調理実習型の出前講座

### カレーで県産食材の魅力を伝える

広島県本部



県産食材を使用したカレーを調理する児童ら

ハウスの食品の入江元基さんは「カレーは野菜や米、肉などが一度に食べられる料理です。カレーを通じて、地元野菜や米などを食べるきっかけにしてほしい」と話しました。

この取り組みは、野菜や米、肉などを一度に摂取することができるカレーの調理実習を通して、児童たちに広島県産農畜産物の魅力、おいしさを身近に感じてもらうことを目的に、昨年度から始めました。当日は、ハウス食品が今回の出前講座のために考案したオリジナルレシピをもとに、児童たちが県

産の広島菜やトマト、広島血統和牛「元就」や広島県民米「あきるまん」などを使ってカレーを作りました。

講座では、おいしい米の炊き方や、カレーに使われているスパイスや野菜について、講師が説明しました。参加した児童からは「苦手な野菜でもカレーだと食べることができた」といった声も聞かれました。

広島県本部は、ハウス食品(株)と共同で調理実習型の出前講座を開催しました。10月10日は呉市立吉浦小学校で5年生34人、29日は三原市立小泉小学校で5、6年生29人が参加しました。



# 四国初 全農と資材店舗共同経営

## 半年で年間売上目標金額1億円達成

### 「JA-CATあわ市店」 9JAが合併しオープン

JA徳島県は今年4月にJA板野郡、JA名西郡、JAアグリあなん、JAかいふ、JA徳島北、JAあわ市、JA麻植郡、JA美馬、JA阿波みよしの9JAが合併し、広域JAとして誕生しました。

合併に先立ち、3月には、



「JA-CATあわ市店」外観



商品ラインアップが充実



スタッフの丁寧な対応が好評

JAと全農が共同経営を行う大型園芸資材店舗「JA-CATあわ市店」が開店しました。JA-CATは全国で

2例目、四国では初のオープンとなり話題を呼びました。

JA徳島県あわ市営農経済センター内には、CAT店舗のほかには農産物直売所、営農指導事務所、JA-SS、農機センター、キッチンスタジオなどの施設が集約され

ており、地域とJAの懸け橋となる営農の拠点施設として期待されています。

### 農業資材は1万円以上 家庭菜園向けに講習会も

生産者向けに農薬や農業資材のラインアップを充実させ、従来の購買店舗の5倍となる1万円以上のアイテムを用意。営農相談ができる窓口を併設したことで、ワンストップで病害虫のトラブルなどにも対応できるようになり、生産者から好評を得ています。

また、生産者向けだけでなく家庭菜園向けの少量の肥料やマルチなどの資材も取りそろえ、イベントで簡易土壌診断や家庭菜園向け講習会を行うなど、普段はJAから足が遠のいていた客層を呼

### JA徳島県 (徳島県)



び込む努力も行っていきます。

店舗内にはJA職員手作りのPOP(店内広告)を数多く使用。週替わりの栽培管理情報などを掲示し、今後とも農業のプロから初心者まで親しみやすい店舗作りを目指していきます。

このようなきさまざまな取り組みが功を奏し、1年間の売上目標金額1億円をオープン半年で達成することができました。今回の売り上げは、予想を上回る肥料販売が後押しとなっており、特にJAオリジナルのナスやブロッコリーの低コスト省力化肥料が好評でした。



JA職員手作りのPOP

のない大型店舗ということ当初は不安もあったが、スタッフが一懸命頑張ってくれたおかげで今回の売り上げ達成に至った。これからも生産者のニーズに対応してより一層地域の方に愛される店舗にしていきたいと力強く語りました。

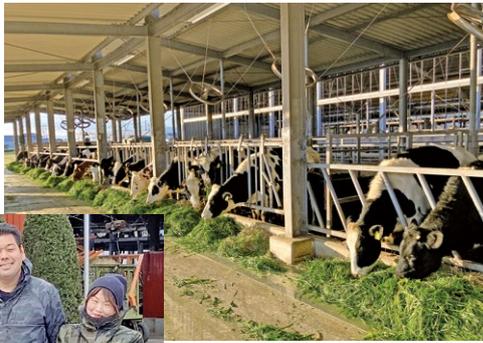
概要	2024年4月1日現在
正組合員数	4万3198人
准組合員数	2万1204人
職員数	994人
販売品取扱高	210億円
購買品取扱高	117億円
貯金残高	5768億円
長期共済保有高	1兆3085億円
主な農産物	ニンジン、ブロッコリー、キュウリ、スダチ、ナス、イチゴ、ナス、シタケ、水稲、スイートコーン、牛肉、トマト、梨、レタス、ラッキョウ、レンコン

# 全農グループ 会社探訪

## 日本酪農協同株式会社

### 「毎日飲んで、毎日健康」をスローガンに 酪農家と共に乳業の発展と将来に向け歩む

日本酪農協同(株)は創業以来、酪農家と共に歩み続け、2023年8月から全農のグループ会社となりました。今後も独自の生産技術を活用して、消費者の健康習慣づくりにつながる商品を開発し、酪農家と共に、乳業の発展を目指して取り組んでいきます。【広報・調査部】



酪農家と共に乳業の発展を目指して



商品ラインアップ

「草から牛乳」がモットー  
協同の理念を忘れない

「毎日牛乳」のブランドでおなじみの日本酪農協同は、1948(昭和23)年「和泉酪農業協同組合」として大阪府岸和田市で創業しました。

終戦後の困窮した食料事情の中、乳牛が農家にとって邪魔な草を食べ、国民の健康増進のために、完全食品ともいわれる「牛乳」に変えてくれることに着目。創業者自ら酪農をはじめ、後に近隣の酪農家を集めて酪農協同組合を設立しました。毎日、自ら搾った生乳

を処理・製品化して自分たちで販売する——という新しいビジネスモデル、今でいう6次産業化を開始しました。

54年には社名を関西酪農協同(株)に改称し、翌55年、「毎日牛乳」ブランドが誕生。64年に社名を現在の日本酪農協同に改称しました。既に広く認知されていた「毎日牛乳」というブランドを社名にしなかったのは、酪農協同組合からスタートした「創業時の志を忘れまい」という想いからです。

現在は、4工場、1支店、3営業所を配置し、北海道には子会社があります。また、学校給食には毎日50万本近くの牛乳を提供しており、地域社会への貢献にも努めています。

滋賀、福井、徳島  
県産牛乳を取りそろえ

日本酪農協同は商標「毎日牛乳」の通り、牛乳の製造・販売が主力であり、その中でも県産牛乳を各種幅広く取りそろえています。

現在は、滋賀県産生乳を使用した「近江の牛乳」、福井県

産生乳を使用した「福井県産牛乳」、徳島県産生乳を使用した「とくしまの牛乳」があります。各県の酪農家の方々の協力のもと、それぞれの牛乳のおいしさを消費者へ届けています。



県産牛乳各種

プラスチック製品削減へ  
ストローレスパック導入

2022年4月から徳島県内の学校給食用牛乳のパッケージに、環境負荷低減、SDGs、食育などの観点からストローレスパックを導入しました。その後、23年には大阪府の一部エリアへもストローレスパックが導入され、今年は

「毎日飲んで、毎日健康」  
「牛乳習慣」が創る豊かな社会

代表取締役社長  
後藤 正純氏



私たちは、地域の酪農家と共に歩むことを原点とし、創業から70年以上、酪農の振興と牛乳の消費拡大への取り組みを通じて、地域社会への貢献に努めてきました。

「毎日」ブランドのもと、「毎日飲んで、毎日健康」をスローガンとして掲げ、栄養価に優れた「牛乳習慣」が創る豊かな社会を目指し、創造と挑戦を繰り返してきました。また、常に、お客さまのニーズに応えるべく、「安全・安心」「美味い」「栄養」「健康」を軸とした商品づくりを心がけてまいりました。

これからも、衛生・品質管理を徹底し、自信と責任を持って、より良質な商品をお届けできるよう取り組んでまいります。

徳島工場の移転で  
新たな乳飲料の開発も

1961年より稼働していた徳島工場は、2022年に現在の徳島県上板町へ移転し



ストローレスパック

年間で約3000万本のプラスチックストロー削減を見込んでいます。

ました。製造能力も大きく向上し、国産乳製品の消費拡大と生産基盤の安定のため、徳島工場製造の乳飲料の開発にも取り組んでいます。最近では、



新徳島工場

「国産果汁100%」シリーズとして、これまで「玉林」「ふじ」「みかん」を発売し、今春には、「白桃」を発売しました。円安を背景に輸入果汁が高騰し、国産果汁の需要が高まっていることから、さまざまな食シーンで手軽に飲める「ロングライフ」で常温保存可能な果汁飲料を提案し、多くの消費者に国産果汁のおいしさを届けるために取り組んでいます。

カルシウムや鉄分強化の乳飲料を開発し、病院施設向けに提案を行っています。

りんご、みかん、桃  
国産果汁へのこだわり

「国産果汁100%」シリーズとして、これまで「玉林」「ふじ」「みかん」を発売し、今春には、「白桃」を発売しました。円安を背景に輸入果汁が高騰し、国産果汁の需要が高まっていることから、さまざまな食シーンで手軽に飲める「ロングライフ」で常温保存可能な果汁飲料を提案し、多くの消費者に国産果汁のおいしさを届けるために取り組んでいます。



毎日マーク

商標の「毎日マーク」は「日の出」（元旦の旦の字）を表しています。「日は毎日昇り、その太陽の恵みを受けて草が育ち、その草を牛が毎日食べて、酪農家が毎日乳を搾る。その乳を毎日処理して、毎日の健康のため、日が昇るとともにお客様に毎日届ける。」このような太陽の恵みをマークと赤のシンボルカラーで表現するとともに、「毎日飲んで、毎日健康」というスローガンを掲げています。

毎日ロゴマークについて



国産果汁100%シリーズ

会社の概要（2024年3月現在）

- 本店所在地 大阪市浪速区塩草二丁目9番5号
- 本部所在地 大阪府和泉市小田町一丁目8番1号
- 事業内容 牛乳・乳製品・清涼飲料水などの製造・販売
- 創業年月日 1948(昭和23)年3月
- 代表者 代表取締役社長 後藤 正純
- 従業員数 300人

公式ホームページはこちら



<https://www.mainichi-milk.co.jp>



本社広告塔

## 「エコープ塩こうじパウダー(だし入り)」 数量限定パッケージで販売

全農は、エコープマーク品コミュニティサイト「Aむすび」のレシピコンテストで組合員からアイデアを募集した「エコープ塩こうじパウダー(だし入り)」のレシピを、同商品の小袋デザインに採用し、数量限定で販売します。【くらし支援部】

同商品は、素材のうまみを引き出す塩こうじを粉末状に加工し、使いやすさと保存性を向上させた調味料です。食材の下ごしらえから野菜炒めなど調理時の味付けまで、さまざまな料理に幅広く利用できます。

コンテスト入賞作品などの全6種類のレシピを印刷した小袋をランダムに同封することで、「Aむすび」利用者の投稿意欲の向上はもちろん、購入者には、塩こうじパウダーの新たな利活用方法の提案と開封時に6種類の異なるレシピが入っているワクワク感を訴求しました。

全農は、今後も「Aむすび」を通じて組合員の声を反映した魅力的な商品づくりを目指します。

## コンテスト入賞レシピを 商品小袋デザインに採用



6種類のレシピが小袋に印刷された「エコープ塩こうじパウダー(だし入り)」

## ブラウブリッツ秋田の選手と子どもたちが一緒に稲刈り 次世代を担う子どもたちに収穫体験の場を提供

秋田県本部は10月6日、サッカーJ2リーグのブラウブリッツ秋田との共同企画「元氣わくわくキッズプロジェクト」を開催し、田んぼで稲刈りを行いました。【秋田県本部】

プロジェクトは「次世代を担う子どもたちの健全な育成」を目的に実施しており、今年で11年目になります。稲刈りには、ブラウブリッツ秋田の河村匠選手も参加し、子どもたちと「あきたこまち」の手刈りに挑戦しました。はじめは不慣れな作業に苦戦していた子どもたちも作業を進めるうちにコツをつかみ、手際よく刈り取る姿がみられました。また当日は、稲刈り体験以外にも梨やリンゴの収穫体験や、サッカー体験も開催しました。

さらに、稲刈り体験で子どもたちが収穫した米は、10月20日に開催された「JA全農あきたPresentsブラウブリッツ秋田ホームゲーム」で両チームへ贈呈しました。



ブラウブリッツ秋田の河村匠選手(右から2人目)と稲刈りを楽しむ子どもたち



子どもたちはリンゴの収穫体験にも挑戦

JA全農の産地直送通販サイト



### みかんの里「JAありだ」

和歌山県の有田地区を流れる有田川の左右の山々や海岸沿いの山々には、一面にミカン畑が広がります。傾斜地のミカン畑に階段状に積まれた石垣は、保温、排水、光の反射効果があり、おいしいミカン作りにかかせません。

有田地区では、ミカン栽培に適した気候と土壌条件、生産者の絶え間ない努力によって、年間約7万4000トンの「有田みかん」が生産されています。

JAありだ直営選果場「AQ」は「Arida(有田)」「Quality(品質)」を指し、光センサーによって高品質のミカンを選別しています。

酸味と甘味のバランスが絶妙で、コクのある味わいが特徴の「有田みかん」をぜひご賞味ください。



有田みかん5kgS~M 11月中旬ごろ~順次発送  
【AQ選果場】...3400円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)

